

## 横手税務署長賞

### みんなを救う税

横手市立横手北中学校 鈴木 美琴

―二〇一一年三月一日十四時四十六分―日本を襲った大地震、東日本大震災。当時私は、わずか生後四カ月だった。

東日本大震災は、東北地方を中心に発生したマグニチュード九、〇にも達する大規模な震災である。私が当時住んでいた宮城県も、大きな揺れに襲われた。津波の影響もあり、地域は、壊滅的な状態にあった。

そんな状況を復興へと導いてくれたのが、「税金」だ。調べてみると、東日本大震災からの復興のために、特別税が追加され、全国から資金が集められたそう。私は正直、税に対して良くないイメージが強かったが、この事を知って、税はなんて温かいお金なんだと思つた。税金に興味を湧いた私は、もっと税について知りたくなつた。

インターネットや教科書で調べてみると、税は色々な所で役に立っている事が分かった。例えば、建物が火事になつてしまった時。普通なら一一九番に電話をすればすぐに消防車が来てくれるが、税金が無いと消防車の出動に高いお金がかかったり、助けが来なかつたりするかもしれないのだ。また、緊急時以外にも困る事はあり、それが、公共の道路や施設が損壊した時だ。実はこのような場合の修理にも税金は使われていて、税金が無かつたら壊れてしまった部分はそのままという事になる。そうなると交通事故などの危険な事故の原因になりかねない。つまり、このような危険からも、税は守つてくれているのだ。

私は、これらの活躍を知つて、その素晴らしさに感動したが、それと同時に自分が恥ずかしくもなつた。なぜなら、自分は税に対する感謝をしていなかったからである。税はこんなにも沢山の人を支えているというのに、テレビでは脱税などといった悪い印象が付いてしまうニュースばかり報じられている。また、所得税や消費税を厄介に思う人も少なくは無いだろう。けれども、それでは税に失礼なのではないかと私は思う。けがをした時や、災害が起きた時、いつも助けてくれるのは税だ。そのおかげで、私達はいつても何不自由なく暮らす事が出来ている。ピンチの時に現れる、正にヒーローのようなものだ。私はそのヒーローの存在を、絶対に忘れないようにしていきたいと強く思う。そして、私が大人になったら、この事を次の世代にも伝えていき、みんなが明るい気持ちで税を納められるようにしたい。

「税金」というのは、必ず無駄にはならない。どこかで、誰か困っている人を救ってくれる。だから、あなたも「税なんて。」と思わずに自信を持って税を納めて欲しい。そうすればあなたもヒーローの一員だから。